

研究課題名	小膵腫瘍に対する EUS-FNAB (Endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration biopsy : 超音波内視鏡下穿刺吸引生検) と SPACE (Serial pancreatic juice examination : 連続膵液細胞診) における新型穿刺針の有用性についての検討
研究の意義・目的	膵腫瘍性疾患は膵癌といった非常に予後の悪い疾患を含んでおり、診断法として超音波内視鏡という胃カメラを使い膵臓の組織を採取する「超音波内視鏡下吸引生検 ; EUS-FNAB」が有用とされています。EUS-FNABは診断の成績が高く安全な検査ですが、それでもなお、診断が難しい場合もあり、治療のタイミングを逸する可能性があります。また、腫瘍が超音波下で見えないような小さな病変については EUS - FNAB が困難であり、その他の方法として内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査 (ERCP) を用いた「連続膵液細胞診 (SPACE)」があります。この検査は膵液を回収し診断するものですが、検査後の膵炎発症率が高いのが問題です。診断をより早く適切に行うためにはより安全で正確な検査が必要ですが、10mmもないような小さな腫瘍に対して EUS - FNAB あるいは SPACE いずれが適切であるかはいまだわかっていないのが現状です。当院は年間100例程度のEUS-FNABと年間10例程度のSPACEを行うハイボリュームセンターであり、その情報を振り返り検討することで、検査の安全性と有効性を検討し、患者さんごとにあった検査を提供できることになればと考えています。
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日 ~ 2027年9月30日
研究協力をお願いしたい方 (対象者)	2007年1月~2022年9月30日までに大阪公立大学医学部附属病院の消化器内科で、膵疾患の診断のため超音波内視鏡下吸引生検あるいは内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査をされた方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報等 : 病歴、診断名、年齢、性別、既往歴、血液検査データ、超音波内視鏡下穿刺吸引生検検査情報、内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査情報
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院消化器内科のみで行い、他の機関に情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院消化器内科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学 研究責任者 垣谷 有紀
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。

研究に協力を したくない 場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	担当者：垣谷 有紀 所属：大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学 住所：大阪市阿倍野区旭町 1-4-3 電話番号：06-6645-3811